



「第2回」
龍昌寺

(福島県相馬郡新地町)



墓石を捜し、築いた慰霊碑 忘れてはならない思いをつなぐ

「新地町は三つの村が合併して一つの町になりましたが、一村一寺の古い形態を残しています。地区のほとんどが同じ寺の檀家さんなので、何代にもわたり強い結びつきがあります」。住職の斎藤崇淳さんは、静かな海を望む龍昌寺の丘に立ち、当時をしる。

龍昌寺の檀信徒が暮らす釣師^{つりしほ}浜漁港は、昔から釣師カレイなどが有名で、豊富な魚がとれる港だった。海沿いに家が建ち並び、防波堤を散歩したり、釣りを楽しんでたりしていた日常の風景が、震災で一変する。町内でも約500世帯が流され、116人が亡くなった。

「流されたお墓を捜そう」。同寺と墓地会の人々が一丸となり、震災後すぐにながれきや泥の中を捜し始めた。見つけた墓石は境内の丘になった所に積み上げて集合墓としたが、直方体の黒い墓石、丸みを帯びた灰色の墓石と、色も形もばらばら。だが、そこに「釣師観音」を奉り、慰霊碑とした場所が東北お遍路の第一号巡礼地となった。

斎藤住職はまた、慰霊碑近くの墓地を無償で提供し、新しい墓を迎え入れた。「ここにお参りすると先祖に会えるよううれしい」と住民に笑顔が戻った。

「地域、家族、景色……いつもの暮らしの中にこそ幸せがあります。あたりまえの日常を大事にし、周囲に感謝することが大切です。道路や住宅の復興も大事ですが、心の復興も大事なことです。私たちも地域の方々の心の支えになりながら、津波の恐怖を後世に伝えていきたいと思えます」



巡礼地と千年物語を募集中!

巡礼地とその場所にまつわる千年先まで語り継ぎたい物語を募集しています。

一般社団法人東北お遍路プロジェクト
<http://tohoku-ohenro.jp/>

- 1 さくら観音が「檀信徒物故者の碑」を優しく見守る
- 2 「釣師北畑墓地集合墓碑文」には後世に伝えるべく記録が刻まれている
- 3 龍昌寺二十八世住職・斎藤崇淳さん
- 4 平成27年3月11日に建立された「東日本大震災被災物故者供養塔」

